



救助工作車 II 型 (通称名: レンジャー)

年式: 平成 18 年式
 全長: 7.65 m 全幅: 2.5 m 全高: 3.45 m
 排気量: 6400cc 車両総重量: 11,840kg
 乗員定員: 6人 クレーン(車上): 最大容量 2.9ト



活動スペースを拡張し、安定させることができるラムシリンダー。交通救助などで車のフロント部分が大きく変形し、ドライバーが挟まれている場合などで使用する。

大型油圧 ラムシリンダー

- 通常 62.5cmの長さが最大 150cmまで伸張。
- 最大で 25トもの押し上げる力があります。



救助工作車の
 救助装備を紹介!
 必ず助ける!

大型油圧 カッター

- 最大で 3.5cmの鉄筋も切断が可能。
- 60トを超える切断力で、さまざまな救助作業において威力を発揮します。

大型油圧切断機と呼ばれるカッター。交通救助の際には、スプレッダーで作った隙間に差し込んでロック機構などを切断し、ドアの開放などを行う。

大型油圧 スプレッダー

- 4つの機能…①押し上げ、②引き裂き、③引っ張り、④押しつぶしの作業が可能。
- 最大で開く力は 20ト。最大で 72cmまで展開可能。

交通救助のほか、要救助者が何かに挟まれた状況で活躍するスプレッダー。ドアを拡張して開放したり先端で対象物を潰したりと活躍の幅は多岐に渡る。

まだまだあるぞ!



照明(車両上部)
 ○全4灯 (2400kw)

夜間作業では 400 m先も映すことのできる非常に明るい照明。日中の現場でも作業中であることをアピールするために使用することもある。



はしご(車上に収納)
 ○最大 8.7 mまで伸長

訓練で一番使用されるはしご。高いところから要救助者を助けるなど、使用頻度は高い。

キラリ★中野のチカラ

かんだ ゆうき
神田 雄樹さん【中野市消防団長】



地域に密着して 自分たちのまちを守る

地域に密着して住民の安心・安全を支え、自分たちのまちを守る消防団。今回は、中野市消防団の団長を務める神田雄樹さんにお話を聞きました。

○消防団員について

火災が起きたときに消防車で現場に駆けつける消防職員と消防団員。消防職員は、岳南広域消防組合の職員で、消防の専門職ですが、消防団員は、会社員や自営業などの自分の仕事を持ちながら活動する地域のボランティア的な存在です。

消防団員はそのような環境の中で訓練を重ね、消火・救助などが必要になった際には、その中心となる消防職員と連携して活躍しています。

○消防団の活動内容について

火災時は、消防職員と連携して消火活動を行い、火災が一段落した後は残火処理を行います。また、鎮火後も引き続き現場の警戒に当たります。



水害などの自然災害の際は、避難誘導、救助・救出、災害防衛活動などを24時間体制で交代で仮眠をとりながら行います。

また、行方不明者の捜索

なども消防団の仕事の一つです。

平時時は、災害を未然に防ぐための「予防消防」に力を入れており、空気が乾燥して火災の危険が高まる時期などには、地区内での注意喚起の広報を行います。

夏にはポンプ操法の技術や規律を競う大会があり、各分団が早朝と夜間に大会に向けた訓練に励みます。ポンプ車などの機械類に精通するためでもあり、組織内の士気高揚にもつながっています。

○消防団の魅力

地域のつながりが希薄になりつつあるといわれますが、消防団は地域のさまざまな年代の人が集まっているため、人とのつながりができ、地域のコミュニティとして重要な役割を果たしています。私自身、消防団活動を通じて年齢や職業も異なる大切な仲間と出会うことができ、先輩方の指導の下、人間の幅も広げることができたように思います。



○これからの消防団

これまでの消防団の装備は火災に特化したものでしたが、今年から救助資機材搭載型車両を1台、総務省から貸与を受けて運用を始めています。救助活動に必要な資機材が搭載されており、近年増加している自然災害による救助活動にも対応できるようになっています。このように火災だけではなく、地域に密着した災害に強い消防団の体制づくりをしていきたいと考えています。

また、中野市では女性消防団員も活動しており、女性ならではの視点を生かした活動に期待が寄せられています。今後はさらに女性の比率を高めていければと思っています。

○市民の皆さんへ一言

私自身も若い頃、消防団は入りづらいイメージがありました。実際に入団して活動が続けてきた中で、人生においてプラスになることがとても多かったと思います。自分のできる範囲で、少しでも地域に貢献したいという思いを持つ若い人たちは、ぜひ消防団に入団してほしいと思います。

